

序

熊本野生生物研究会 会長

高 添 清

近年、熊本の環境分野では様々な話題がありました。荒瀬ダムの解体工事が始まり、阿蘇は世界農業遺産に指定され、水銀問題に関する「水俣条約」の会議が開かれました。2012年の豪雨は阿蘇をはじめ白川水系などに甚大な被害をもたらし、昨年暮れには阿蘇が噴火しました。近い将来生じる可能性の高い大地震には盛んに警鐘が鳴らされています。また、今年の夏は地球温暖化を痛烈に実感させる猛暑と長雨でした。

その中でも本会は様々な調査を実施してきました。精力的に野生生物の調査に関わり、その成果をもとに教育的課題への提言を行ってきました。これは、環境問題に関する的確な視点を持った人材が地域のさまざまな分野において未来を担い、そのような人材の育成が重要であると考えているからです。2015年2月に出版した「くまもとの哺乳類」は、この基本的な認識の下に本会の活動をまとめた集大成でもあります。多くの若い人に読んでいただき、自然の中へ出かけてくれることを心から期待しています。

本会はこの数年の間に会長西岡鐵夫先生、顧問今江正知先生、そして本会の出発点となったニホンカモシカ生息分布調査の団長としてご指導頂いた九州大学名誉教授小野勇一先生の訃報に接しました。先生方に心からの感謝を申し上げるとともにご冥福をお祈りします。先生方のご指導の数々を忘れることなく、これからも本会の理念として活動したいと思えます。

理科教育や環境教育の発展に寄与する活動は、教育、産業や文化の発展に限らず、命を育み守ることに繋がります。自然環境での様々な体験は子どもたちの心身の発達に欠かせない、と多くの人々が気づいてきました。私たちはこれからも地域の生態系に関する知見を深め、さまざまな環境問題に関わる対策の情報発信を行っていきたいと考えています。そこで、本会の活動記録であるこの会誌の重要性が、今後増すことになるでしょう。

会誌は活動の成果を世に問うとともに、「未来の社会の文化的な『豊かさ』にも貢献したい」という願いも込められています。お手に取っていただく皆様には、私たちのこのような理念と活動をご理解していただければ幸いです。

この会誌8号の発刊にあたって、ご尽力いただいた編集委員会を始め、ご協力いただいた多くの方々に厚くお礼申し上げます。「くまもとの哺乳類」とともに、本会の今後の発展のためにも忌憚のないご意見をお願いして挨拶の言葉といたします。

平成27年10月30日